

# 【平成 30 年 5 月の経済報告】

平成 30 年 5 月 24 日

本稿は、マイクロマシン／MEMS 分野を取り巻く経済・政策動向のトピックをいろいろな観点からとらえて発信しています。平成 30 年 5 月の経済報告をお届けします。

## 1. 全般動向

3 月の C I（速報値・平成 22(2010)年=100）は、先行指数：105.0、一致指数：116.4、遅行指数：118.0 となった。

先行指数は、前月と比較して 0.9 ポイント下降し、2 か月ぶりの下降となった。3 か月後方移動平均は 0.54 ポイント下降し、3 か月連続の下降となった。7 か月後方移動平均は 0.18 ポイント下降し、20 か月ぶりの下降となった。

一致指数は、前月と比較して 0.4 ポイント上昇し、2 ヶ月連続の上昇となった。3 か月後方移動平均は 0.87 ポイント下降し、3 ヶ月連続の下降となった。7 か月後方移動平均は 0.12 ポイント下降し、2 か月ぶりの下降となった。

遅行指数は、前月と比較して 0.4 ポイント下降し、8 か月ぶりの下降となった。3 か月後方移動平均は 0.06 ポイント上昇し、8 か月連続の上昇となった。7 か月後方移動平均は 0.37 ポイント上昇し、16 か月連続の上昇となった。

詳細は以下の HP をご参照下さい。

<http://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/di/201803psummary.pdf>

## 2. 各経済指標

### ◎ 月例報告（内閣府）（平成 30 年 5 月 23 日公表）

日本経済の基調判断

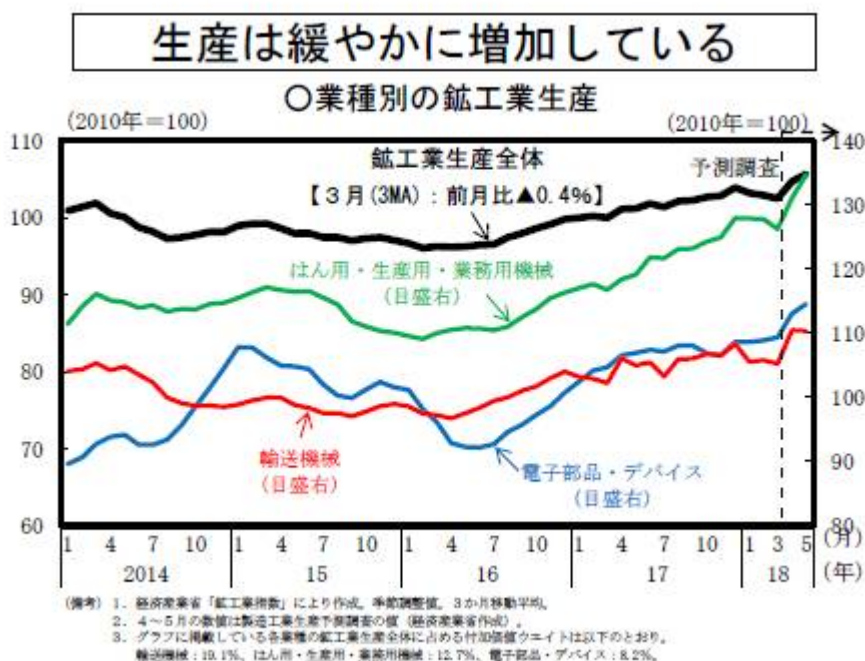
（現状）

- ・景気は、穏やかに回復している

（先行き）

先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあつ

て、穏やかな回復が続くことが期待される。ただし、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。



詳細は以下のHPをご参照下さい。

<http://www5.cao.go.jp/keizai3/getsurei/2018/05kaigi.pdf>

## ◎ 設備投資

### 平成 30 年 3 月実績：機械受注統計調査報告

(平成 30 年 5 月 17 日内閣府経済社会総合研究所)

機械受注総額の動向をみると、2018(平成 30)年 2 月前月比 2.3%減の後、3 月は同 7.9%減の 2 兆 2,280 億円となった。

需要者別にみると、民需は前月比 18.8%減の 9,196 億円、官公需は同 5.2%減の 2,432 億円、外需は同 7.2%減の 9,386 億円、代理店は同 9.3%増の 1,306 億円となった。

民間設備投資の先行指標である「船舶・電力を除く民需」の動向をみると、2018(平成 30)年 2 月前月比 2.1%増の後、3 月は同 3.9%減の 8,566 億円となった。このうち、製造業は同 17.5%減の 3,650 億円、非製造業(除く船舶・電力)は同 2.2%増の 4,759 億円となった。

## 対前月(期)比

(単位:%)

需要者	期・月	2017年度	2017年		2018年		2017年	2018年		
		(平成29年度)	(平成29年)		(平成30年)		(平成29年)	(平成30年)		
		(実績)	7-9月 (実績)	10-12月 (実績)	1-3月 (実績)	4-6月 (見直し)	12月 (実績)	1月 (実績)	2月 (実績)	3月 (実績)
受注総額		6.9	6.9	4.0	-5.9	9.9	-13.4	4.5	-2.3	-7.9
民 需		-1.1	5.7	3.1	-3.5	6.6	-6.0	-3.4	14.9	-18.8
〃 (除船電)		-0.8	2.8	0.3	3.3	7.1	-9.3	8.2	2.1	-3.9
製 造 業		9.2	6.2	9.5	2.5	9.9	-8.5	9.9	8.0	-17.5
非製造業(除船電)		-7.8	0.0	-2.1	3.4	3.7	-5.3	4.4	0.0	2.2
官 公 需		-5.2	11.6	-5.0	-6.4	1.1	1.8	-18.7	23.6	-5.2
外 需		18.8	8.8	0.6	-1.7	11.2	-8.2	11.6	-7.8	-7.2
代 理 店		5.5	-2.6	-1.4	0.3	4.7	-3.7	-3.1	3.3	9.3

(備考) 季節調整値による。季節調整系列は個別に季節調整を行っているため、需要者別内訳の合計は全体の季節調整値とは一致しない。

詳細は以下の HP をご参照下さい。

<http://www.esri.cao.go.jp/ip/stat/juchu/1803juchu.html>

## ◎鉱工業指数調査

【最新プレス情報 平成30年3月分】 (平成30年5月16日発表)

鉱工業指数(生産・出荷・在庫、生産能力・稼働率、生産予測指数)  
～製造業の動きから見る日本の景気～

<概況>

製造工業稼働率指数は、102.4 で前月比0.5%の上昇であった。

製造工業生産能力指数は、94.3 で前月比-0.1%の低下であった。

製造工業生産能力・稼働率指数、平成22年（2010年）=100

	季節調整済指数		原指数		
	指数	前月比	指数	前月比	前年同月比
稼働率	102.4	0.5	110.6	10.3	0.6
生産能力			94.3	-0.1	0.2

鉱工業指数、平成22年（2010年）=100

	季節調整済指数		原指数	
	指数	前月比	指数	前年同月比
生産	104.1	1.4	114.5	2.4
(速報値)	(103.9)	(1.2)	(114.3)	(2.2)
出荷	101.5	1.2	115.5	1.4
(速報値)	(101.3)	(1.0)	(115.2)	(1.1)
在庫	113.5	3.3	105.9	3.9
(速報値)	(113.7)	(3.5)	(106.1)	(4.1)
在庫率	117.1	2.7	99.0	5.5
(速報値)	(117.7)	(3.2)	(99.5)	(6.1)

#### <電子部品・デバイス工業、電気機械工業>

(1) 3月の製造工業稼働率指数は、102.4で前月比0.5%の上昇であった。

業種別にみると、はん用・生産用・業務用機械工業同2.8%、化学工業同1.7%、輸送機械工業同0.6%等が上昇し、情報通信工業同▲2.3%、電子部品・デバイス工業同▲0.7%、電気機械工業同▲0.8%等が低下した。

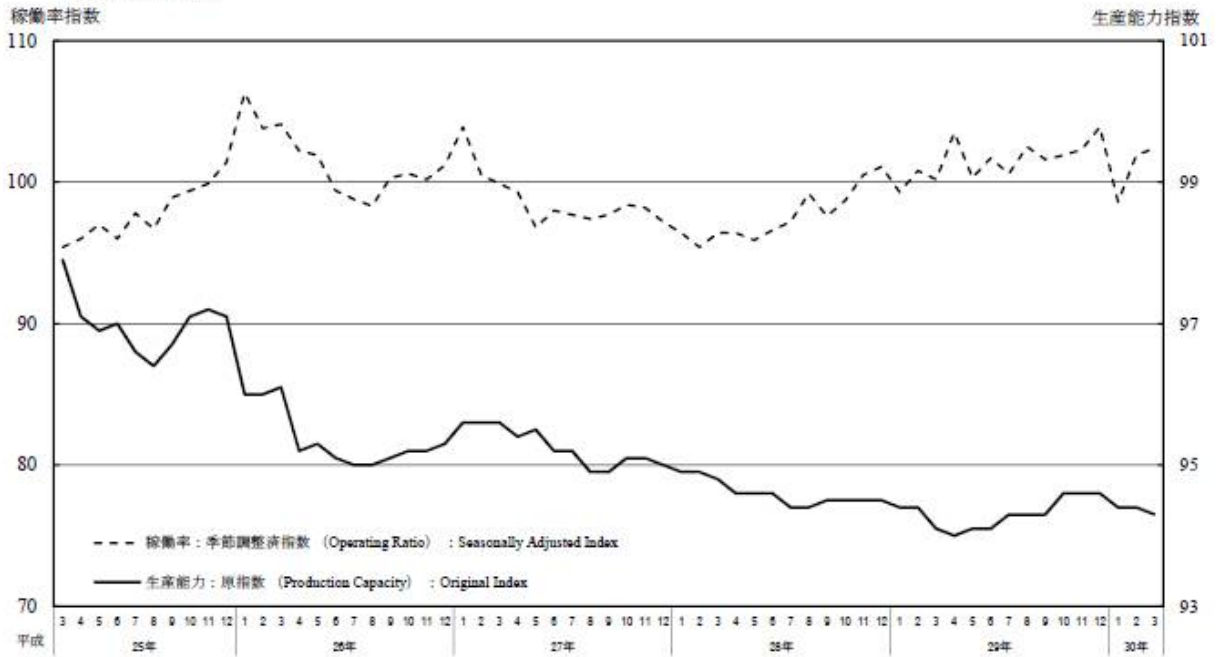
(2) 3月の製造工業生産能力指数は、94.3で前月比▲0.1%の低下であった。

業種別に見ると、情報通信機械工業同▲2.3%、電気機械工業同▲0.2%、化学工業同▲0.1%等が低下し、はん用・生産用・業務用機械工業同0.1%、電子部品・デバイス工業同0.1%が上昇した。

### 製造工業生産能力指数・稼働率指数の推移(グラフ)

Historical Data (Graph) for Indices of Production Capacity and Operating Ratio

(平成22年基準)  
(2010 average=100)



**製造工業生産能力指数・稼働率指数の時系列表**  
 Historical Data for Indices of Production Capacity and Operating Ratio

平成22年 = 100  
 index, 2010 = 100

年 月	稼働率 Operating Ratio				生産能力(末) Production Capacity			Year and Month	
	季節調整済指数 Seasonally Adjusted Index		原指数 Original Index		原指数 Original Index				
	前月(期)比 %Change From Previous Month(Quarter)		前年 (同月期)比 %Change From Previous Year		前月(期)比 %Change From Previous Month(Quarter)	前年 (同月期)比 %Change From Previous Year			
平成 27 年			98.7	▲ 2.6	95.0		▲ 0.3	C.Y. 2015	
28			97.7	▲ 1.0	94.5		▲ 0.5	C.Y. 2016	
29			101.5	3.9	94.6		0.1	C.Y. 2017	
平成 27 年度			98.0	▲ 2.6	94.8		▲ 0.8	F.Y. 2015	
28			98.6	0.6	94.1		▲ 0.7	F.Y. 2016	
29			101.7	3.1	94.3		0.2	F.Y. 2017	
平成29 年	I 期	100.1	0.0	101.9	3.7	94.1	▲ 0.4	▲ 0.7	Q1 2017
	II 期	101.8	1.7	100.2	5.8	94.1	0.0	▲ 0.5	Q2
	III 期	101.6	▲ 0.2	101.4	3.3	94.3	0.2	▲ 0.2	Q3
	IV 期	102.7	1.1	102.5	2.9	94.6	0.3	0.1	Q4
平成30 年	I 期	101.0	▲ 1.7	102.6	0.7	94.3	▲ 0.3	0.2	Q1 2018
平成29 年	1月	99.3	▲ 1.8	96.1	3.4	94.4	▲ 0.1	▲ 0.5	Jan. 2017
	2月	100.8	1.5	99.6	3.9	94.4	0.0	▲ 0.5	Feb.
	3月	100.2	▲ 0.6	109.9	3.6	94.1	▲ 0.3	▲ 0.7	Mar.
	4月	103.5	3.3	98.7	6.2	94.0	▲ 0.1	▲ 0.6	Apr.
	5月	100.3	▲ 3.1	96.2	5.7	94.1	0.1	▲ 0.5	May
	6月	101.7	1.4	105.6	5.5	94.1	0.0	▲ 0.5	Jun.
	7月	100.6	▲ 1.1	103.5	3.0	94.3	0.2	▲ 0.1	Jul.
	8月	102.5	1.9	97.0	4.1	94.3	0.0	▲ 0.1	Aug.
	9月	101.6	▲ 0.9	103.6	2.7	94.3	0.0	▲ 0.2	Sep.
	10月	101.9	0.3	102.8	5.0	94.6	0.3	0.1	Oct.
	11月	102.3	0.4	103.0	1.5	94.6	0.0	0.1	Nov.
	12月	103.9	1.6	101.6	2.3	94.6	0.0	0.1	Dec.
平成30 年	1月	98.6	▲ 5.1	96.9	0.8	94.4	▲ 0.2	0.0	Jan. 2018
	2月	101.9	3.3	100.3	0.7	94.4	0.0	0.0	Feb.
	3月	102.4	0.5	110.6	0.6	94.3	▲ 0.1	0.2	Mar.

※ なお、詳細は以下の HP をご参照下さい。

[http://www.meti.go.jp/statistics/tyo/iip/result/pdf/press/b2010\\_201803nj.pdf](http://www.meti.go.jp/statistics/tyo/iip/result/pdf/press/b2010_201803nj.pdf)

**2. その他の動向**

1) 電子部品グローバル出荷統計

一般社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA) は、電子部品グローバル出荷統計の最新版月別出荷金額 (2018. 4. 27 発表) を公表しました。

- ・ 2018 年 2 月グローバル出荷額は 2,975 億円、前年比 98.1% となり、前年比マイナスとなった。
- ・ 品目別出荷は受動部品 (前年比 102.2% 1,104 億円)、接続部品 (同 97.0% 846 億



円)、変換部品(同 94.6% 626 億円)、その他の電子部品(同 86.8% 398 億円)となった。

・地域別出荷は、日本(前年比 102.2% 760 億円)、米州(同 109.6% 327 億円)、欧州(同 116.6% 360 億円)、中国(同 85.7% 852 億円)、アジア・その他(同 98.4% 678 億円)となった。

## 【月別出荷金額】

### 1. 月別出荷金額(2018.04.27 発表:毎月更新)

電子部品出荷額(億円)	2017年度						2017年度累計		
	12月		1月		2月		4月-2月		
	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)	
世界計	3,527	108	3,604	115	2,975	98	37,664	110	
(日本)	938	122	880	115	760	102	9,104	113	
品目別	受動部品	1,283	114	1,340	127	1,104	106	13,652	114
	コンデンサ	895	118	945	133	768	108	9,420	117
	抵抗器	130	110	132	114	118	101	1,422	111
	トランス	36	108	38	116	35	108	410	107
	インダクタ	220	101	223	113	182	102	2,399	107
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-
	接続部品	929	103	919	105	846	96	10,308	112
	スイッチ	395	103	408	103	370	95	4,464	108
	コネクタ	528	103	506	106	471	98	5,786	115
	その他	5	98	5	111	4	90	57	108
	変換部品	863	116	859	116	626	94	8,467	112
	音響部品	235	127	226	112	142	93	2,007	114
	センサ	354	103	350	107	318	97	3,858	106
	アクチュエータ	273	125	282	134	165	90	2,601	120
	その他の電子部品	451	92	485	104	398	86	5,236	95
	電源部品	202	105	196	98	185	96	2,189	107
	高周波部品	249	83	289	109	212	80	3,046	87

## 【地域別出荷金額】

### 2. 地域別出荷金額

«2017年度»

地域別出荷金額(億円)	2017年度						2017年度累計	
	12月		1月		2月		4月-2月	
	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)
グローバル	3,527	108	3,604	115	2,975	98	37,664	110
日本	938	122	880	115	760	102	9,104	113
米州	307	109	352	111	327	109	3,549	107
欧州	285	111	391	119	360	116	3,758	115
中国	1,233	98	1,213	117	852	85	12,974	105
アジア他	765	108	770	111	678	98	8,314	113

#### ※電子部品グローバル出荷統計について

- ・本統計は、電子部品部会で実施している「電子部品企業のグローバル向け調査」を基に作成しております。
- ・本調査は、参加70数社から提出された、連結ベース(グループ間取引調整後)の出荷額データをとりまとめたもので、地域に関するデータは、原則として出荷部品が消費される地域への出荷になります。  
なお、合計値につきましては、単位未満切り捨てのため、一致しない場合がありますので、ご了承ください。

※ なお、詳細は以下の HP をご参照下さい。

[http://home.jeita.or.jp/ecb/information/info\\_stati.html](http://home.jeita.or.jp/ecb/information/info_stati.html)

## 2) MEMS 関連最新調査

米国調査会社マインドコマース(Mind Commerce)の調査レポート「MEMS(微小電気機械システム) 2017 - 2022 年 : コンポーネント、製品、用途、垂直市場」は、MEMS のエコシステム、企業、製品、サービスなどの市場を査定している。2017-2022 年の MEMS 市場の機能、機器、用途、垂直市場を予測し、世界市場と地域毎に提供している。

内容は、

- \* 内蔵システムと MEMS
- \* MEMS 市場促進要因
- \* 企業分析
- \* MEMS 市場予測

となっております。

サマリーは以下の HP をご参照下さい。

<http://www.dri.co.jp/auto/report/mindc/mcmems.html>

以上